（１）交通の2030(令和12)年目標：**乗用車１割1,200台EV・FCV化**

19ページ記載の住民アンケート結果より、現状ではEV車などのエコカーを所有していない家庭が45.1%を占めています。長野県目標を参考に2030(令和12)年度には、乗用車の１割、1,200台は、EV又はFCVを目指します。また、近くの移動（30分程度）は徒歩や自転車で外出し、自動車の走行距離を縮減します。

1,200／12,462台（2030年町内の全乗用車推計保有台数（軽貨物を除く））

☞ **家の車は2台に1台は電動車に**(ガソリン車よりCO_2▲40%、燃料費▲2.8 万円/年))
☞ **近くの移動**(30 分以内)や**街中は徒歩・自転車で外出。**環境にも**健康面**でも効果的。

（２）建物の 2030(令和 12)年目標：**全ての新築建築物の ZEH・ZEB 化**

住民アンケート結果より、現状では住宅の半分以上が断熱不足となっており冷暖房の使用量の増大にくわえ、ヒートショックなどの健康リスクも生じています。長野県目標を参考に2030(令和 12)年度には、全ての新築建築物の ZEH・ZEB 化（高気密高断熱等による省エネと再生可能エネルギーを組み合わせたエネルギー自給自足型の建物）を目指します。

☞ **住宅新築時は ZEH を選択**(建築費＋400～500 万、光熱費▲30 万/年、17 年で回収)
　＊ ヒートショックやアレルギー性鼻炎などのリスクが軽減、**健康寿命も延伸**
☞ **ビル新築時は ZEB を選択**(建築費 1.1～1.2 倍、50%以上の省エネで光熱費削減)
　＊ **職場の快適性**、**災害・停電時**の事業継続性、**企業価値**の向上

（３）再エネの2030(令和12)年目標：**住宅用太陽光発電を徹底普及**

住民・事業者アンケート結果ともに、導入が望まれる新エネルギーとして太陽光発電が最も多く挙げられています。長野県信州屋根ソーラーポテンシャルマップのシミュレーションによると、町内のすべての建物の屋根に太陽光発電設備を設置した場合に想定される発電量は、町内の全電力使用量の約半分に相当します。

(総発電量ポテンシャルの発電量) 85,426MWh÷（2019 年電気使用量）179,401MWh×100＝４８％

現在の導入件数は、家庭用で主流の 10kW 未満では 1,227 件です。長野県目標を参考に2030(令和 12)年度には、2.7 倍の 3,300 件を目指します。

住宅太陽光(10kW 未満)の導入件数：(2019) 1,227 件 ⇒ (2030) 3,300 件（2.7 倍）

☞ ソーラーポテンシャルマップを確認、屋根ソーラーが当たり前の箕輪町に
　●「最適」は 10 年程度、「適」は 11～15 年程度で投資回収が可能
☞ 地域の事業者がゼロカーボンの先導役となり、再生可能エネルギー事業を支える